

平成 28 年度学校関係者評価委員会提言に基づいた次年度にむけての喜多見小学校改善の方針

春和の候、皆様にはご健勝のこととお喜び申し上げます。また、日頃より本校の教育に対してご理解とご協力を頂きましてありがとうございます。

さて、平成 28 年度の学校関係者評価へのご協力、ありがとうございました。つきましては、主な学校関係者評価の結果および学校関係者評価委員会の分析・提言、そして、本校の次年度へ向けての改善策を報告させていただきます。

1 回収率

	児童 (5・6 年)	保護者	地域
配布数	217 部	714 部	47 部
回収数	217 部	515 部	32 部
回収率	100%	72%	65%
増減(昨年度比較)	±0	±0	+3

2 関係者評価項目の主なアンケート結果、分析と提言、改善策**(1) 学習について 顕著な結果(%は「とても思う」と「思う」の割合)**

評価者	評価項目	結果
児童	黒板の書き方やプリントなどを工夫している	82%
児童	先生は時間を守って授業をしている	82%
保護者	本校では子どもたちにとって分かりやすい授業をしている	80%
保護者	本校では、授業をとおして、子どもたちに学力がついている	78%

① 分析と提言

児童の「黒板の書き方やプリントなどを工夫している」についての項目は、肯定的な回答が増加傾向にある。また、児童の「先生は時間を守って授業をしている」についての項目は、昨年より肯定的な回答が増加した。学習の見通しをもたせ、学習規律を定期的に確認し、引き続き、校内研究や日々の授業研究を通して教材・教具の工夫をし、さらに多くの児童が授業を楽しめるようにすることが重要である。

保護者の「本校では子どもたちにとって分かりやすい授業をしている」では、肯定的な回答が約 80% で前年度と同程度の回答が見られた。また、保護者の「本校では、授業をとおして、子どもたちに学力がついている」では、昨年度に比べ肯定的な回答が増加した。算数や国語の校内研究の成果や学び舎での思考力育成の取り組みの成果が考えられる。引き続き、保護者が「学力が付いている」と実感できるように、分かりやすい授業作りの工夫をしていく必要がある。教職員が課題をもって授業力を身に付けるよう研究や研修に励んでいく。また、計算力アップテスト等で基礎基本の理解を促し、分かる喜びを実感させるなど、効果的な学習活動についてより工夫する必要がある。

② 改善策

校内研究の一貫として、「はい、立つ、です。」や声のものさしについて、掲示した。また、昨年末にこれまでの指導をまとめ、学習用品スタンダードを作成した。このことにより、全校で一致して取り組むことができ、児童が集中して授業に取り組めるようになった。

今後は学習に関してのスタンダードを作成し、これまで以上に共通して取り組み、教職員は各々の課題を改善すべく授業力を身につけていくようにする。また、計算力アップテスト等で基礎基本の理解を促し、分かる喜びを実感させるなど、効果的な学習活動の工夫をしていく。また、大型テレビや実物投影機を効果的に活用した授業作りも進めていく。

(2) 生活指導について 顕著な結果（％は「とても思う」と「思う」の割合）

評価者	評価項目	結果
児童	先生に注意されたことは納得できる。	82%
児童	わたしは、きまりを守って行動している。	69%
児童	だれかが学校のきまりを守らないとき、先生はきちんと注意している	81%
地域	本校の子どもたちは、社会のルールを守っている	97%

① 分析と提言

児童の「先生に注意されたことは納得できる」の項目は肯定的な回答が増加傾向にあり、教師と児童が意思疎通を図り、よい関係を保ち指導が行き届いていると考えられる。しかし、児童の「わたしは、きまりを守って行動している」や「だれかが学校のきまりを守らないとき、先生はきちんと注意している」の項目は、肯定的な回答が減少している。「喜多見小学校よい子の一日」や「学習スタンダード」等、学校全体で守るルールを徹底させ、児童の規範意識を高めていくとともに、教師が児童の手本となるよう行動していくことが大切である。

地域の「本校の子どもたちは、社会のルールを守っている」の項目は、肯定的な回答が増加した。引き続き、校外での過ごし方等の指導を継続するべきである。

② 改善策

日ごろの様子や学期に1回ずつ行う「生活アンケート」、日記などから児童理解を進め、他児との関わりを丁寧に見極め、より効果的な指導につなげていく。

(3) 学校行事について 顕著な結果（％は「とても思う」と「思う」の割合）

評価者	評価項目	結果
児童	楽しみにしている行事がある	86%
保護者	学校行事を楽しみにしている	98%
児童	わたしたちは、楽しみにしている行事（運動会・学芸会など）がある。	82%

① 分析と提言

児童、保護者ともに「楽しみにしている行事がある」「学校行事を楽しみにしている」の項目に対して、80％以上が肯定的な回答である。さらに、地域の「行事の内容は充実している」「準備・案内などで配慮がある」の項目も80％以上が肯定的な回答である。その一方で「学校行事のときに地域が協力できることはもっとある」の肯定的な回答が減少していることから、今後も学校行事等での地域との連携を大切にしていく。

児童への質問「行事では、みんなが活躍するチャンスがある」は、約80％が肯定的な回答ではあるが、減少傾向が見られた。大きな行事で少しずつ全学年に合った役割を設定する。また、司会が「何年生が～をしてくれました。」と伝える場を設けるようにし、各学年の活躍を全校に伝えるようにすることが大切である。

② 改善策

学年行事、学校行事を通じ、児童一人ひとりが充実した活動を行い、自己有用感がもてるよう、意図的・計画的に実践していくようにする。

(4) 学校運営について 顕著な結果（％は「とても思う」と「思う」の割合）

評価者	評価項目	結果
保護者	学校長をはじめ教職員は、協力して教育活動に取り組んでいる	78%
保護者	教職員は、教育活動に熱心に取り組んでいる	81%
地域	学校はていねいに説明・対応してくれている	85%

① 分析と提言

「学校長をはじめ教職員は、協力して教育活動に取り組んでいる」「教職員は、教育活動に熱心に取り組んでいる」の項目では、約80％の保護者が肯定的であった。その一方で、地域の「学校はていねいに説明・対応してくれている」の項目は肯定的な回答が少し減少している。

昨年以上に情報を周知し、その方法を工夫していくことで、学校への理解を得られるようにしていく。今後も、年度始めの学校便りや保護者会にて説明の機会を設け、情報を発信していく。特に、年度当初に行われる保護者会の出席を促して、多数の方に来ていただけるよう工夫していく。

② 改善策

昨年同様に情報周知することが課題である。今後も、ホームページを活用し、年度始めの学校便りや保護者会にて説明の機会を設け、情報を発信していく。特に、年度当初に行われる保護者会の出席を促して、多数の方に来ていただけるよう引き続き工夫していく。

(５) 教職員について 顕著な結果（％は「とても思う」と「思う」の割合）

評価者	評価項目	結果
児童	先生は、熱心に教えてくれる	88%
児童	先生は、よくわたしの話を聞いてくれる。	80%
保護者	本校の教職員は、教育活動に熱心に取り組んでいる。	80%

① 分析と提言

児童については、３つの評価項目すべてにおいて肯定的な回答が増加した。特に「熱心に教えてくれる」「よく話を聞いてくれる」の項目に関しては、教職員が課題意識をもって取り組んだ結果、昨年度に比べ肯定的な回答が１０％近く増加している。保護者については、昨年度課題が残った「教育活動への熱心さ」「社会人としてのマナー」の項目について若干ではあるが肯定的な回答が増加した。今後さらに児童・保護者からの信頼が得られるよう、親身になって児童の話を聞き、保護者への連絡や相談を密に行って連携を図っていく必要がある。

② 改善策

「喜多見の子」を全員で見守る、受け止めることを教職員に伝え、一致して児童の指導に当たるようにする。

(６) 広報活動・情報提供について 顕著な結果（％は「わからない」の割合）

評価者	評価項目	結果
保護者	学校は地域に向けて情報提供をしている	93%
保護者	学校公開や道徳授業地区公開講座などで学校の様子がよくわかる。	88%
保護者	本校のホームページは、充実している。	58%

① 分析と提言

地域からの回答では、「地域に向けて情報提供をしている」の項目において９０％を越える肯定的な回答を得ることができ、「学校公開などで学校の様子がよくわかる」の項目でも肯定的な回答が増加傾向にある。一方、保護者の回答では同様の項目において肯定的な回答に減少傾向が見られ、保護者に向けての情報発信方法を改善することが求められている。ホームページについては、一昨年度から改善が見られず、否定的な回答が２０％近くに増加している。今後は掲載内容や掲載方法を見直し、さらに興味をもって見ていただくための手段を工夫することが課題である。

② 改善策

今後も学校の教育活動についてより分かりやすく発信する機会を増やす。ホームページについては、「分からない」という回答が増加し、２０％以上を占めている。今後も学校行事や学年での活動等を掲載し、ホームページを更新していく。また、毎月の学校だよりにアドレスを載せたり、PTA 携帯ホームページでも紹介したりするなど、さらに興味をもって見ていただく手段を工夫する。

(７) 地域との連携について 顕著な結果（％は「わからない」の割合）

評価者	評価項目	結果
地域	学校運営委員会が充分機能している。	58%
児童	「学び舎」の区立中学校との交流が増えている。	52%
地域	「学び舎」の区立中学校についての十分な情報が提供されている。	42%

① 分析と提言

「学校運営委員会が充分機能している」については、地域からの肯定的な回答が１０％近く減少した。今後も学校運営委員会後に発行される委員会便り等を読んでもらうことで活動を周知し、活動がより機能していくようにする。「学び舎」の活動について、児童の『学び舎』の区内中学校との交流が増えている」の回答では否定的な回答が１０％近く増加した。また、保護者に関しても未だ情報が十分に届いていないことが伺える。学び舎の交流がより活発になるように、小中合同での授業研究や挨拶運動、育てた野菜の交換等の活動を充実させていくことが課題である。一方で、保護者の「学び舎」についての肯定的な回答は減少傾向にあるため、学び舎での活動をより積極的に周知していけるよう、今後も学校便りの配布等で学び舎として互いの様子を伝えていく必要がある。

② 改善策

タイムリーに学校運営委員会だよりを保護者に読んでもらう工夫をしてきた。また、学び舎での活動をより積極的に周知していけるよう、今後も学校便りの配布等で学び舎としてお互いの様子を伝えていくようにしてきたが、児童・生徒同士のかかわりを増やし、児童や保護者に実感してもらうようにする。

(8) 学校の安全性について 顕著な結果（％は「とても思う」と「思う」の割合）

評価者	評価項目	結果
保護者	災害時の対応を保護者に周知している	88%
地域	校は安心・安全な学校づくりを進めている。	100%
保護者	本校では、校内の環境や給食等への衛生面の配慮がなされている	85%

① 分析と提言

保護者の「災害時の対応を保護者に周知している」についての肯定的な回答が90％に近い結果、地域の「本校は安心・安全な学校づくりを進めている」については肯定的な回答が100％であった。今後も引き取り訓練を行ったり、災害や不審者等の対策について情報を発信したりすることで、保護者が安心して児童を学校へ送り出すことができるように万全の対策を取っていききたい。また、「校内の環境や給食等への衛生面の配慮がなされている」についての肯定的な回答は、昨年度に引き続いて80％を超えている。給食試食会での調理の衛生管理についての説明、給食便りの内容の充実、校内美化等の取り組みが評価されたものと考えられる。今後も環境や衛生面の配慮を怠らず、継続して取り組んでいく必要がある。

② 改善策

現在計画されているクラス増に伴う増改築の安全性の確保を進めるとともに、十分な情報提供を保護者、地域に行っていく。さらに、災害や不審者等の対策について情報を発信し、保護者が安心して児童を学校へ送り出すことができるよう、万全の対策を取っていく。校内の環境や給食等への衛生面の配慮がなされている」について、今後も環境や衛生面の配慮を怠らず、継続して取り組んでいく。

(9) 学校生活全般について 顕著な結果（％は「とても思う」と「思う」の割合）

評価者	評価項目	結果
児童	毎日の学校生活が楽しい。	80%
保護者	本校の子どもたちは学校生活が楽しいと感じている。	89%

① 分析と提言

児童について、「毎日の学校生活が楽しい」の項目では、否定的な回答が若干増加したが、肯定的な回答のAが増加した。保護者でも、「子どもたちは学校生活が楽しいと感じている」の項目の肯定的な回答は90％を少し切っている。校舎改築のため、遊び場の確保が難しく、児童が体を思いっきり動かせる機会が少ないということも考えられるが、保護者や児童の声に耳を傾けながら、より充実した学校生活の実現を目指していくことが課題である。

② 改善策

増築工事中につき、制限されることは多いが、その中で可能な限り児童の生活環境を整え、充実した授業展開ができるよう努力していく。

(10) 独自項目について 顕著な結果（％は「とても思う」と「思う」の割合）

評価者	評価項目	結果
保護者	子どもたちは、あいさつをよくする。	60%
保護者	子どもの言葉遣いがよい。	43%
児童	よい言葉づかいをしている。(目上の人に対する言葉遣いなど)	72%
保護者	子どもは、漢字検定を通して、家庭での学習時間が増えた。	82%

① 分析と提言

保護者では、「子どもたちは、あいさつをよくする」は減少したものの、「子どもの言葉遣いがよい」について肯定的な回答が増加している。また、児童の「言葉遣いに気をつけている」の項目では肯定的な回答は昨年よりも増加した。保護者・児童とも言葉遣いに対する実践力に課題意識をもっていることが分かる。

「漢字検定を通して家庭での学習時間が増えた」の項目では、肯定的な回答が昨年度と同様に、ほぼ60％の保護者が子どもの学習時間が増えたと感じている。約40％の保護者が「学習時間が増えた」と感じていないことについては、漢字検定の内容が宿題に組み込まれていることも考えられる。

② 改善策

「挨拶と言葉遣い」は社会生活においても基本である。同じ大人相手でも、立場や親しみやすさによって態度や言葉遣いが変わる子がいたり、注意を受けていても口答えする子がいたりすることから、学校や家庭における目上の人への挨拶や言葉遣いの指導の浸透と習慣づけを継続して行っていく。

また、漢字等の基礎基本を習得することに課題意識をもち、児童や保護者が自発的に学習に取り組む意識が高まるよう、今後も取り組みを工夫していく。さらに、児童が熱心に取り組む姿や具体的な成果などを発信することにより、家庭学習と関連付けることができるようにしていく。